

施策評価（平成30年度）

施策評価調書

政策コード	5	政策名	未来を担う教育・人づくり戦略
施策コード	5	施策名	生涯学習を行動に結び付ける環境と芸術・文化に親しむ機会づくり
幹事部局	教育庁	担当課	生涯学習課
評価者	教育委員会	実施日	平成30年6月6日

1 施策の目的等（政策との関連、必要性、取組内容、取組後の姿 など）

地域コミュニティを活性化する取組や魅力ある地域づくりへの住民参加を促進し、元気な秋田づくりにつなげていくため、生涯学習の成果を行動に結び付ける環境づくりや文化遺産等の保存・活用に取り組むほか、読書活動や芸術・文化体験活動を通じて豊かな情操を育むとともに、共感を通じて人と人をつなぎ付け、協働・共生する心、主体的に判断し適切に行動する力の育成を図る。

2 施策の状況

(1) 代表指標の状況

●施策目標(評価指標)		基準値 年度	年度	H25	H26	H27	H28	H29	直近の 達成率	備考
①	地域で活動する行動人(ことうびと)の人数	16,332	目標		40,000	45,000	50,000	55,000	117.9%	H29確定値
		H24	実績	32,190	41,703	46,761	51,265	64,855		
	県・生涯学習課調べ	単位:人	達成率		104.3%	103.9%	102.5%	117.9%		
②			目標							
			実績							
			達成率							

(2) 代表指標の分析（推移の状況、実績・達成率の認識、全国順位等）

平成29年度の「行動人」の紹介人数は、目標（55,000人）を大幅に上回る結果となった。増加の要因としては、若い世代の登録が増えたこと、行動人が全県的に認知され、市町村からの情報提供による登録が増えたことが挙げられる。

(3) 関連指標の状況

●施策目標(評価指標)		基準値 年度	年度	H25	H26	H27	H28	H29	直近の 達成率	備考
①	課題支援公立図書館・公民館図書室の割合	27.1	目標		50.0	60.0	70.0	80.0	93.3%	H29確定値
		H24	実績	38.6	67.1	75.7	71.8	74.6		
	県・県立図書館調べ	単位: %	達成率		134.2%	126.2%	102.6%	93.3%		
②	芸術・文化施設におけるセカンドスクールの利用者数	22,153	目標		23,500	24,000	24,500	25,000	88.2%	H29確定値
		H24	実績	21,712	20,840	27,620	25,478	22,062		
	県・生涯学習課調べ	単位: 人	達成率		88.7%	115.1%	104.0%	88.2%		
③	国・県指定等文化財の新規件数(累積)	4(720)	目標		4(738)	4(742)	4(746)	4(750)	150.0% (101.8)%	H29確定値
		H24	実績	9(729)	19(747)	5(748)	13(758)	6(764)		
	県・生涯学習課文化財保護室調べ	単位: 件	達成率		475.0% (101.2)%	125.0% (100.8)%	325.0% (101.6)%	150% (101.8)%		
④			目標							
			実績							
			達成率							
⑤			目標							
			実績							
			達成率							
⑥			目標							
			実績							
			達成率							
⑦			目標							
			実績							
			達成率							

(4) 関連指標の分析(推移の状況、実績・達成率の認識、全国順位等)

- ①目標値には届いていないものの、平成28年度に一旦減少した実施図書館数が増加し、27年度と同数(53館)まで戻っている。図書館設置市町村では全てで実施されているが、小規模な分館や公民館図書室で未実施館が残っている状況である。
- ②芸術・文化施設におけるセカンドスクールの利用者数は、県立美術館・近代美術館では改装に伴う休館のため、博物館では周辺におけるクマ出没の影響のため、農業科学館では県外からの利用者数の減少の影響のため、利用者数を伸ばすことができず、目標を下回った。
- ③国、県指定等文化財の新規指定件数は、国指定重要文化財(建造物)の指定があったほか、県指定を進めることにより着実に増加している。

(5) 施策の推進状況（施策の方向性ごとに記載）

① 多様な学習機会の提供と学んだことを行動に結び付ける環境づくり

●取組① 学習機会の充実とその成果の社会への還元

・「あきたスマートカレッジ」では、20種113回の各種教養講座に加え、県の機関や他の文化施設との「連携講座」を実施し、若い世代が参加しやすい講座や「行動人」が講師を務める講座を開設した。

・「行動人」のネットワーク化を図るため、「行動人交流集会」を開催するとともに、「行動人」が自らの活動を県民に紹介する15の自主企画講座で延べ96回の講座開催を支援した。

●取組② 読書活動の推進に向けた環境の整備

・民間との協働により、子どものためのおはなし会や中・高校生の参加によるビブリオバトル大会など、読書環境の充実と読書に親しむきっかけづくりとなる取組を行った。

・県内3地区において、高校生や親世代を対象とした読み聞かせボランティア養成講座を実施した他、全県のボランティアが一堂に会する交流会を開催した。

・県立図書館による市町村立図書館等の職員を対象とした研修や、図書館訪問による助言・情報提供等を通じて図書館関係者の人材育成と資質向上に努めた。

② 芸術・文化体験活動の推進と文化遺産等の保存・活用

●取組① 豊かな心や感性、創造性を育む芸術・文化体験活動の推進

・幅広い世代を対象とする美術館教室や博物館教室を4館で100講座以上開催し、県民へ芸術・文化体験活動の場を提供した。

・普段、音楽や演劇などの優れた芸術文化に触れる機会の少ない過疎地域の学校を対象に、「秋田県青少年劇場」を16校で実施したほか、「芸術文化による子供の育成事業」を55校で実施した。

●取組② 有形文化財や民俗文化財、記念物など文化遺産等の保存・活用

・文化遺産等の保存・活用は、重要文化財天徳寺や県指定有形文化財等の修理に助成するなど、着実に進められている。

・民俗文化財については、県内5小学校を会場に後継者育成を目的とした民俗文化財公開交流事業を行った。

・「あきたの縄文遺産パスポート」及びその小学生版によるシールラリーや、「JOMON AKITA 2017 縄文文化展」を行うなど、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた取組をPRし、登録への気運醸成に努めた。

・文化遺産等の価値を再認識し、地域活性化につなげるため、日本遺産認定取得に取り組んだ。

3 評価

総合評価	A
評価理由	代表指標は目標を大幅に上回り、「行動人」の認知が進み、地域で活躍する人材の掘り起こしが一定程度進んできたと考えている。 関連指標については、2つの項目で目標達成には至らなかったが、課題支援公立図書館については、全ての公立図書館設置市町村で実施されており、分館及び公民館図書室で未実施があるものの、中心館ではすべて実施されていることから、各市町村で課題支援図書館の必要性について理解が進んでいると考えている。 また、芸術・文化施設のセカンドスクールの利用者数については、改修工事による2施設の休館や施設周辺へのクマの出没といった外的要因による影響が出たものの、一時的なものであり、今後、状況は改善されるものと捉えている。 また、文化財の指定・保存、民俗文化財の後継者の育成につなげる交流事業などが継続されていることに加え、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指す取組では、構成資産のない県央地区や県南地区でも反響があり、全県的な気運醸成が進むなど、文化遺産等の保存・活用は着実に進められている。 以上のことから、本施策の総合評価は「A」とする。

4 課題と今後の対応方針

① 課題（新たな課題、環境変化等により生じた課題 など）

第2期プランにおいて、生涯学習の成果を行動に結び付ける環境づくりや文化遺産等の保存・活用に取り組むほか、読書活動や芸術・文化活動を通じて豊かな情操を育むこと等に取り組んできたが、次のような課題がある。

- ・市町村の小規模な図書館や公民館図書室等でも課題解決支援に取り組めるようにするための取組が必要である。
- ・セカンドスクールの活動は保育所、幼稚園から高等学校、特別支援学校までを対象とするものであり、校種や発達段階によって芸術・文化とのふれあい体験の持つ意味は大きく異なり、その対応策も多岐にわたる。より効果的な対応を図るためには対象を絞って方策を検討する必要がある。
- ・「行動人」をどのように人づくり、地域づくりに活用するのか、という観点から取組を進めていくことが必要である。
- ・地域の文化財の総合的な保存と活用、民俗文化財の後継者の育成を進める取組を行う必要があるほか、縄文遺跡群の世界文化遺産登録や来訪神行事等の無形文化遺産登録に向けた取組を継続して推進する必要がある。

② 今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）

第3期プランにおいては、第2期プランでの取組も踏まえ、生涯にわたって学ぶことのできる機会の充実や読書の推進を図るとともに、学んだことを地域に還元できる仕組みをつくっていく。また、子どもたちが優れた芸術や文化に触れる機会の充実を図るとともに、地域の財産である文化遺産等の保存活用を進める。そのため、次の内容に重点的に取り組む。

- ・県立図書館による図書館関係職員研修や、市町村や学校図書館への訪問を通じて、課題解決支援の必要性の周知や地域のニーズに応じた取組を行うための情報提供等の支援を行うとともに、高校生の読書活動の底上げを図っていく。
- ・児童生徒の豊かな感性を育むためには、優れた芸術作品や文化に触れる機会づくりが重要であることから、教員向けの研修会の開催や、学習プログラムの周知を促進することにより、美術館・博物館におけるセカンドスクールの利用の推進を図る。
- ・「行動人」については、第2期プランにおいても目標を上回る登録がなされ、この取組が全県的に認知されたと考えている。今後は、「行動人」が各地域において学んだ成果を地域に還元していく取組を支援するとともに、生涯学習支援システムを活用して、県民の多様な学びの機会に関する情報を積極的に提供していく。
- ・文化財の調査や保存修理、無形民俗文化財の後継者育成の取組を継続するとともに、地域の文化遺産を観光振興・地域振興につなげる取組を行う。さらに、世界文化遺産、無形文化遺産への登録に向けた取組を推進する。

5 政策評価委員会の意見